

読育推進ネットワーク研修会

もっと読書が好きになる【たねまき】

10月6日(金)、読育推進ネットワーク研修会を開催しました。本好きな山形の子どもの育成を目指し、図書館や学校図書館、読み聞かせサークル等、子どもの読育推進に関わる全ての方々の連携を図るのが目的です。今年度のテーマは「もっと読書が好きになる【たねまき】」。

初めは、八幡子育て支援センター子育て相談員の鍋谷志麻さんによる、「乳児・幼児・児童の読育実践発表」です。絵本にある言葉や文に節をつけ、リズムに合わせて手や体、机を叩き、「体で本を味わう体験」をしました。参加者が子どもの立場になって体験し、ひと味違う本の読み方を学びました。

次は酒田南高校講師の佐々木祐子さんと、酒田南高校2年生の後藤杏奈さんによる「高校生の読育実践発表」です。高校生の読書指導研究の紹介後、「酒田南高校絵本の会」の活動について発表していただきました。「酒田南高校絵本の会」は、オリジナル絵本の制作や寄贈、販売、読み聞かせボランティアに

取り組んでいます。後藤さんからは、ご自身が制作し、出版した絵本の読み聞かせをしていただきました。絵本を通して地域と関わることの喜びを感じている高校生の姿は、まさに「本好きな山形の子ども」の集大成の一つと言えます。

休憩・展示鑑賞の時間は、参加者が研修室の後方に展示してある書籍類に目を通していました。参加者同士の温かな交流が生まれ、有意義な時間となりました。

後半は、「この本だいすきの会」庄内支部事務局長の本間俊美さんの講話です。「0歳～18歳までの読育推進の提言」についてご教授いただきました。まずは、事前に参加者から提出いただいた「コロナ禍での読育の実践」の共有です。それをもとに、いつでもどこでも誰とでも楽しくつながる読育推進を目指した「ToDoのたね(ToDoリスト)」の話をしていただきました。参加者がそれぞれの立場で実践に生かせる事例を学びました。

また、子どもの年代別の「読書への関心・読みの特徴」を基に読み聞かせのポイントを示していただきました。参加者は相手の年齢に応じた本へのアプローチ方法について学び、子どもたちが読書が好きになる【たねまき】のヒントを得ることにつながりました。

これからも、子どもの読育推進に関わる皆さんとのネットワークを大事にしながら、山形の子どもたちが読書が好きになるための【たね】をまき続けていきたいです。(担当:高橋)



地域とともにある学校づくり研修会(兼)社会教育主事有資格教員等研修会

100か所あれば100通りの形あり 実践事例からのヒント探し 庄内地区も一歩前へ!



10月12日(木)庄内町余目第二まちづくりセンターを会場に、第2回地域とともにある学校づくり研修会(兼)社会教育主事有資格教員等研修会を開催しました。今回は、農山村地域の小学校、中心市街地の小学校、中学校の3つの事例から学びました。事例提供をしてくださった、吉田拓也先生(鮭川村地域学校協働活動コーディネーター)、堀川敬子先生(山形市立第一小学校地域学校協働活動推進員)、稲富純子先生(茨城県牛久市教育委員会生涯学習課社会教育主事)ともに、素晴らしい実践に至るまでの過程、困難や課題に出くわした際の考え方、取組の土台にある思いや願いまで我々に共有していただきました。

学校と地域のつながり方に正解はありません。「うちはコミュニティ・スクールなんですが、何をしたらいいですか?」「どうやって進めていけばいいですか?」という方法や手段についての質問を受けることが少なくありません。しかしながら、「何をどうするか?」ということよりも、まずは、そこで暮らす方々(学校、家庭、地域全てを含む)で、「この地域を、この地域の子どもたち

をどうしたいか?」という部分を明確にし、共有していくことが大事です。コミュニティ・スクールや熟議、地域学校協働活動は、全て「手段」です。

事例提供いただいた3名の先生方も「どうしたいか?」という目的があつての素晴らしい取組になっています。「100か所あれば100通りの形あり」が、学校、家庭、地域の連携協働の在り方だと、再認識する機会になりました。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動は、学校、家庭、地域が連携協働する上で、課題となる「持続性」というウィークポイントを補う制度、体制でもあります。今回の研修会に参加していただいた方々から、学んだことや気づきが共有され、庄内地区の学校、家庭、地域の連携協働が、生きた取組として拡大していくよう、今後も情報発信、研修会の実施に努めていきます。庄内地区、みんなで知恵を絞って一歩前へ!(担当:岸田)

参加者アンケートより

- ・これからの学校にとって、CS はごく当たり前の事柄になっていくのだと思います。そう考えたとき、CSを導入するか否かを検討している学校の教職員を一斉に集めて、情報共有、研修をつむ方がいいと思いました。CSを中心になって進める側の管理職、教務主任にとっては、かなりの働き方改革になると思いました。(学校教職員)
- ・学校現場はなかなか今回のような研修会に人を出せない状況が多いと思うが、まずは校長自ら学ぼう、取り入れようと本気で思わないと参加しないだろう。校長先生達をその気にさせるにはどうしたらいいのか。(学校管理職)
- ・教員の仕事が多岐にわたっているので、そのことを地域住民に発信し理解をしていただき協力をお願いしたい。(地域学校協働活動推進員)



庄内教育事務所 社会教育課
【公式】Instagram
各種研修会、事業等の情報をお届けします!



庄内地区社会教育情報
ホームページはこちら! →

